

朋友

For You

沖縄セントラル病院広報誌

2007年6月1日発行 創刊号



医療法人寿仁会 沖縄セントラル病院

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1-26-6

TEL.098-854-5511 FAX.098-854-5519

URL <http://w1.nirai.ne.jp/o-centh1/> E-mail o-centh1@nirai.ne.jp

広報誌「朋友」の発刊に寄せて

沖縄セントラル病院
理事長・病院長

大 仲 良 一



百花爛漫の季節を迎え、皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、小院を創設いたしまして、今年で早くも32周年を迎えることが出来ました。これも偏えに多くの職員のご協力と関係各機関のご指導、並びに地域の方々の永手に亘る心暖まるご鞭撻の賜と心から感謝申し上げます。

顧みますれば、祖国復帰間もなく、第一次ニクソン・ショックで変遷著しい社会情勢の中で創立いたしまして、本土並みの保険制度の導入など、幾多の風雪を経験しながら、診療科目の増数をはじめ、その折々の社会のニーズに応えるべく、最新鋭の医療機器の導入などで、微力ながら病める人々のためにつくして参りました。幸いにも大禍なく今日に到りましたことは、関係各位の方々のご鞭撻の賜以外何ものでもございません。涙謝にたえません。

昭和58年には他の医療機関に先駆けて、潜水病をはじめ、脳梗塞、ガス中毒、突発性難聴に奏効する「高気圧酸素治療室」を設置し、今日までに約2,000余の治療を行い、大きな実績をあげる事が出来ました。

また平成14年には病気の治療法の進歩に伴い、頭の手術をしなくても脳腫瘍や脳の血管の病気を治療することが出来る「ガンマナイフ」という最新鋭で沖縄県下随一の画期的な機器を導入して、県民の頭部の病気治療に大きく貢献できたものと自負いたしております。

近年は、世界各地で勃発している地域紛争や自然災害に対する人的・物的支援活動を、県民の力強いご支援とご協力の下に積極的に進めております。

今後は、更に病院環境の整備でアメニティーの充実を図り「ひたすら病める人々のために」、また「県民の更なる健康増進」を目指して、全職員が一丸となって地域医療・保健・福祉の向上のために貢献して参る所存であります。

迫りくる少子化、超高齢化社会で医療界を取り巻く環境はますます厳しいものとなり、一方では、医療・介護サービスの質が大きく問われている今日、本広報誌が行政や他の医療機関、介護関連施設との密接な連携の手段となり、また、地域住民との情報交換の役割、即ち、皆様の健康増進、地域活性化、地域の発展に些かなりともお役に立てることを切に願い、今後とも旧に倍にご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、発刊のご挨拶といたします。

沖縄セントラル病院の概要

専門性の特化(他医療機関との一層の差別化を推進)

沖縄セントラル病院は、創立以来、本県における『Only one, No. one』(オンリーワン・ナンバーワン)を常に目指して歩み続け諸々の差別化を実現してきました。本県における**CT-scan第一号の導入**、**高気圧酸素療法装置**を他院に先駆けて設置、**THP**の推進、2002年6月

に導入した**ガンマナイフ**による治療、更にメディカルフィットネス事業によるメタボリック対策など差別化の最たるものであると自負しております。今後は特化できた斯様な部門を如何に活性化し、継続していくか全添員で究力奮斗中であります。

施設規模

■土地	3294.53㎡
■建物	延床面積 6547.64㎡(2183坪) 地下1階・地上7階
■階数(7階)	地下 食堂、厨房、(空調機械)、図書室、研修ホール 1階 外来ロビー、受付、薬局、検査、売店、歯科、高気圧酸素療法センター、レントゲン検査、よろず相談室 2階 医療療養型病床(23床)、医局、居宅介護支援センター、健康管理センター、ガンマナイフセンター、小会議室 3階 医療療養型病床(57床) 4階 医療療養型病床(57床) 5階 デイサービス、リハビリ、メディカルフィットネス・パワーリハビリセンター 6階 多目的ホール 7階 (電気機械室)
■駐車場収容台数	80台(第1・第2駐車場)
■病床数(計137)	療養型病床(医療137床)

標榜科目

■脳神経外科	■循環器科	■耳鼻咽喉科	■皮膚科	■麻酔科
■整形外科	■消化器科	■歯科	■心療内科	■放射線科
■内科	■呼吸器科	■外科	■リハビリテーション科	■眼科

附 設

■健康管理センター	■居宅介護支援センター	■メディカルフィットネス
■高気圧酸素療法センター	■デイサービスセンター	パワーリハビリセンター
■リハビリテーションセンター	■ガンマナイフセンター	

医療機器設備

■高気圧酸素療法装置(甲種)	■CT-Scan(全身用)	■耳管機能検査装置
■心臓超音波診断装置	■心電計自動分析装置	■聴力検査機器
■腹部超音波診断装置	(24時間心電計・ホルターEGK)	■脳波計
■生化学自動分析装置	■手術顕微鏡機器	■THP体力測定諸装置(20種)
■ガス分析装置	■骨密度検査装置	■メディカルフィットネス機器
■レントゲン一般撮影装置	■負荷心電図用エルゴメーター	
■レントゲン透視診断装置	■筋電計	
■上下部消化管ファイバースコープ	■レクセル社ガンマナイフ定位脳手術装置	
■トレッドミル他リハビリ用機器	■眼科機器(眼底カメラ・視野計・眼圧計・オートレフラクトメーター・その他)	
■MRI(MRA)		



医療法人 寿仁会 沖縄セントラル病院の歩み



1973(昭和48)年	沖縄中央脳神経外科 創立(創立者 医院長 大仲良一) 写真1
1978(昭和53)年	沖縄セントラル病院へ院名改称(9標榜科目) 生活保護法指定病院 登録 第一世代 頭部CT導入 リハビリ友の会 結成
1979(昭和54)年	労働災害保険指定病院 登録
1980(昭和55)年	結核予防法指定病院 登録 国際騎士機構アジア地区第一号「ナイト病院」称号授受 写真2
1981(昭和56)年	病院長 紺綬褒章受章(12月)
1983(昭和58)年	高気圧酸素療法装置導入 写真3
1985(昭和60)年	全国法人会連合、人間ドック実施病院指定
1986(昭和61)年	被爆者一般疾病医療機関 登録
1988(昭和63)年	WHO、国際ロータリーよりインドにおけるポリオ およびコールドチェン調査の為に特命派遣 国際奉仕:(インド:チャンドラ・セカラン氏 6ヶ月間ポリオ後遺症治療受入) 写真4
1989(平 元)年	特例老人病棟増設 国際奉仕:南インド・コインバトル州に 「大仲記念奨学基金」発足 航空特殊身体検査指定医療機関 登録(運輸省) 健康保険組合連合会人間ドック実施病院 指定
1990(平 2)年	中央労働災害防止協会健康測定指導機関 認定(労働省) ゼンセン同盟人間ドック実施病院 指定



写真1



写真2



写真3



写真4

1992(平 4)年	病院創立20周年記念 富士登山(職員15人) 写真5 エイズ予防講演会(那覇市民会館にて 医療、教育、宗教関係者を対象に)
1994(平 6)年	医療法人寿仁会 沖縄セントラル病院 設立(理事長 大仲良一) 写真6 AMDA(アジア医師連絡協議会)沖縄支部設立
1996(平 8)年	AMDA国際奉仕活動: ボスニア・ヘルツェゴビナ国より「PTSD」治療研修のため ストジャコビッチ・ミラン医師を受入(1ヶ月)
1997(平 9)年	AMDA国際奉仕活動: フィリピン国へ医療用ベッド140床寄贈 国際奉仕活動:ペルー国 孤児院シスター入院治療奉仕活動 国際奉仕活動:ペルー国 リマ市における学校建設支援基金寄贈
1998(平 10)年	療養型病床(完全型)認可 AMDA国際奉仕活動:ニカラグア・ハリケーン被災者救援 活動にDr.ルイス、Ns.大城派遣(2週間)
2000(平 12)年	磁気共鳴断層撮影装置設置(MRI 0.5 テスラー) 写真7 介護療養型医療施設 認可 通所介護施設(デイサービス事業)認可 指定介護支援事業所 認可 AMDA国際奉仕活動: インド北部大震災に毛布290枚緊急支援
2001(平 13)年	AMDA国際奉仕活動:国際奉仕:ラオス共和国より医師、 検査技師研修受入(1ヶ月)
2002(平 14)年	ガンマ・ナイフ手術装置設置(5月) 世界各国で172、日本国内で37台目 写真8 国際貢献:フォーラム参加 (元国連事務次長:明石氏と共に病院長)
2003(平 15)年	日本医療機能評価機構認定病院(長期療養型病院)第43号(1月) 磁気共鳴断層撮影装置設置(MRI 1.5 テスラー) メディカル・フィットネスセンター フローゲン設立(12月)厚生省認定 写真9 パワーリハビリテーション設立(12月)厚生省認定 写真10
2004(平 16)年	日本脳神経外科学会専門医認定制度訓練施設 指定(7月) 国土交通大臣表彰(7月)(病院長 大仲良一) 健康増進施設認定規程第2条第1号に規程する 健康増進施設認定(厚生労働省、9月) 沖縄平和賞(AMDA)受賞(10月) 写真11 沖縄県公衆衛生大会長表彰(11月)(病院長 大仲良一)
2005(平 17)年	スマトラ沖地震、大水害への緊急医療奉仕活動、 大城七子看護師派遣(AMDA沖縄支部、1月) インドネシアへ緊急薬品(570ケース)搬送 (JTA株式会社協力、1月) 写真12



写真5



写真6

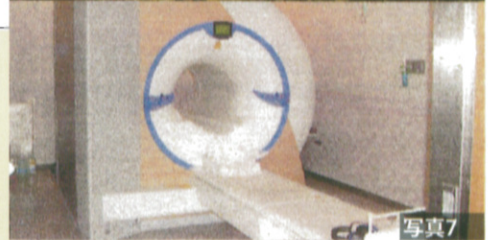


写真7



写真8



写真9



写真10



写真11



写真12

病院の基本理念

- ひたすら病める人々のために
- 健全なる人々の更なる健康増進のために
- 集いし職員トモの生涯修養の館たらんことを

病院憲章

1. 私たちの病院は、地域の人々の健康と福祉を保証し、併せて健やかなる人々の病の予防と更なる健康増進のために努めることを目的とする。
2. 私たちの病院は、生命の尊重と人間愛を基本とし、常に医療水準の向上に努め、専門的・倫理的医療を提供するものとする。
3. 私たちの病院は、病める人々中心の医療の心構えを堅持し、地域の人々の満足を得られるように意欲ある活動をするものとする。
4. 私たちの病院は、何人も利用しやすく且つ便益を人々に公正に分ち合うサービスを志向するものとする。
5. 私たちの病院は、地域医療体系に参加し、各々のもてる機能の連携により、合理的で効率的な医療の成果を上げることに努めるものとする。
6. 私たち職員は、たゆみない研鑽を積み、医療の錬磨と医道の高揚に努め、限らない愛情と責任を持って地域の人々のために最善を尽くすものとする。

看護部の理念

1. 地域の人々の、疾病の予防と健康増進の為に、検診から在宅看護まで一貫した看護活動をとおして地域に貢献します。
2. 患者の身体的、精神的、社会的ニーズにお応えし、きめ細かな看護、介護の実践を目指します。
3. 患者の人権を尊重し、質の高い看護、介護を提供する為に、看護研修や研究を継続します。

高気圧酸素療法

輝く太陽、南国の珊瑚礁がおりなす紺い海とまぶしい白い砂浜、色とりどりの帆も鮮やかに洋上をすべるボードセーリング、海辺にはレジャーを楽しむ人々の歓声がこだましています。しかし楽しいはずの海のレジャーも一歩間違えてしまえば危険が一杯です。

かつて海辺の砂浜でのレジャーがやがて海上へ、更に潜水レジャーへと進化してきた為に、犠牲者が後を絶たない昨今です。

一方獲物を深追いして減圧症(潜水病)になる漁師も

少なくありません。このような突発事故に対応するために、当院では1983(昭和58)年から高気圧酸素療法装置を導入して、多くの患者さんの救命に実績を上げて参りました。

減圧症(潜水病)は体の中の酸素や窒素などの量がアンバランスに陥り、起こってくる病気なので、極く軽い皮膚や神経の症状から、死に至るまで重篤なものまであります。

Q 高気圧酸素療法とは？

A われわれは全く無意識のうちに一気圧という環境の中で酸素をはじめ、種々のガスを吸って生命を営んでいます。潜水という高い気圧環境から、急速に浮上すると体内に存在する窒素ガスが肺から排出されずに、体内に残ることによって様々な症状が発生するものです。

そこでこの治療法は人工的に大気よりも高い気圧環境をつくり、その中で患者に高い濃度の酸素を吸入させ、窒素ガスを排出させることによって血液や組織に溶解した酸素の量

を増加させ新陳代謝や身体機能を改善させるための特殊な治療法であります。

更に近年は、減圧症の患者にとどまらず死亡原因の上位を占める**脳梗塞**、**心筋梗塞**をはじめ、**ガス中毒**、**火災現場**や**空気の流れの悪い処**で起こる**一酸化炭素中毒**、**突発性の難病**、**重症な熱傷**、**低酸素の原因による脳の機能障害**、**重症な頭部外傷**又は、**頭の手術後の後遺症**としての**運動麻痺**などに対する治療患者が増え、何例も良い治療成績をあげています。



尚、このような病気の治療には医療保険が適応されています。
詳しいことは高気圧酸素治療センター担当医か、技師(内線115)にお問い合わせ下さい。

脳腫瘍を切らずに治療!

ガンマナイフセンター

ガンマナイフ治療とは、開頭術することなく脳血管障害や脳腫瘍を治療する方法で、メスを使わない安全かつ完治率の高い脳外科治療です。

開頭術は全身麻酔を必要とし、実際に頭蓋骨を開いて直接脳にアプローチする治療法のため、感染症や術後出血、時には重篤な脳神経の合併症を生じることも稀ではありません。ガンマナイフ治療は、患者様に対する負担が少なく、合併症の危険もほとんど無く、治療に要する入院期間もわずか3・4日です。

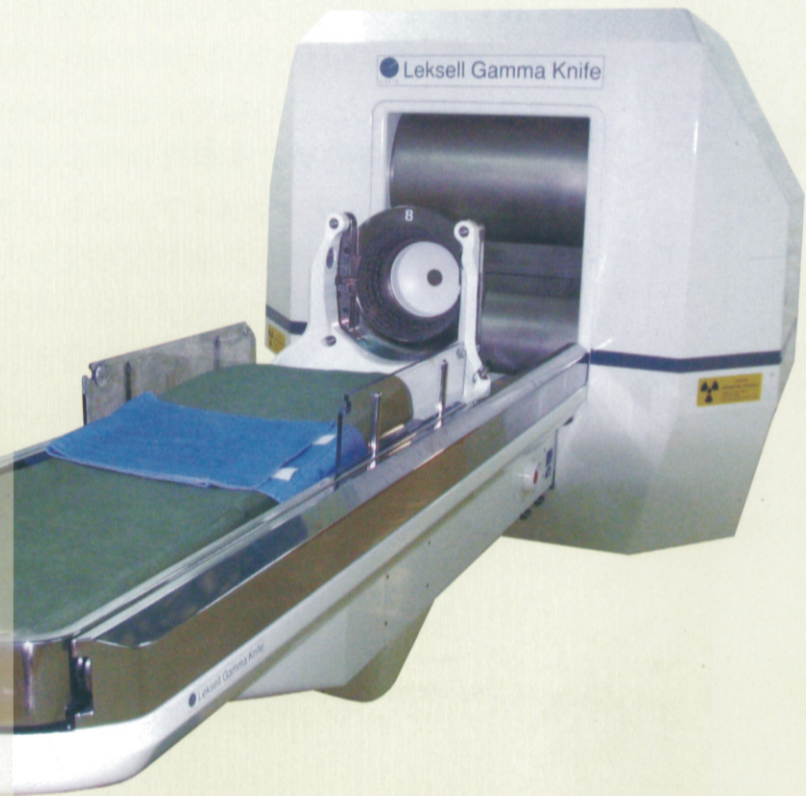
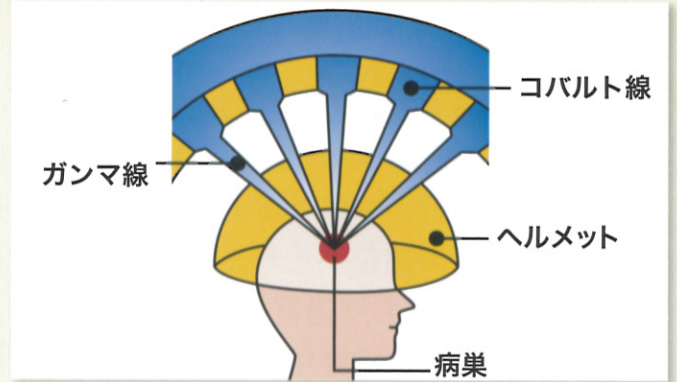
沖縄セントラル病院ガンマナイフセンターは、平成14年5月から治療を開始し、既に約900例以上の患者様の治療を行いました。

癌は我が国の死亡統計のトップであるばかりか、年々増加の一途をたどっています。医学の進歩に伴い、癌であっても生存期間は延長しておりますが、その反面他臓器、特に脳への転移の増加が問題になってきました。ガンマナイフは、従来の開頭術では困難と考えられていた脳深部に存在する脳腫瘍や、脳動脈奇形等の治療効果を発揮します。

ガンマナイフ治療は保険診療が認められており、高額医療の手続きを経て一定支払額以上は還付が受けられます。生体への負担や合併症の危険が非常に少なく、入院期間も短期間で済み、非常に高い治療効果が期待できる治療法です。

脳腫瘍と診断されたからといって悲観する必要はありません。治療適応について専門医の診断が必要になりますので、どうぞお気軽に相談して下さい。

担当/佐村



対象となる疾患

- 脳腫瘍 / 転移性脳腫瘍 ・髄膜腫 ・聴覚神経腫瘍 ・下垂体腺腫 ・頭蓋咽頭腫 ・松果体腫瘍
・血管芽細胞腫 ・脊索腫 ・三叉神経鞘腫 ・グリオーマ等
- 脳血管 / 脳動脈奇形 ・海線状血管腫 ・硬膜動静脈瘤等
- 機能性疾患 / 三叉神経痛 ・パーキンソン病 ・てんかん ・頭痛症等
- 眼窩内腫瘍 / 副鼻腔内腫瘍 ・頭蓋骨 ・頭皮等の様々な疾患等



メディカル・フィットネスセンターへの誘い もっと健康、ずーと元気に!!

不老長寿は人類の永遠の願いで、古今東西多くの賢者が妙薬を求めてきましたが、その夢の実現は今尚夢でしかありません。生から死へ万物流転は世の習いであります。では限られた天寿をいかに全うするか、それはあなた自身の遺伝子と与えられた環境、更に生活習慣によって左右されるといっても、決して過言ではありません。

我が国は昨年まで男女とも世界一の長寿国でしたが、残念ながら男性は1位の座を明け渡してしまいました。我が沖縄県も女性は永く最長寿を誇っていますが、男性は今や26位に転落して県民に与えたショックは大きなものでした。これは生活習慣病が欧米化した結果だと言われています。

今や生活習慣やメタボリックシンドロームという用語が脚光を浴びていますが、当メディカル・フィットネスセンターでは医師による健康診断によって、生活習慣病の有無をチェックした上で、医学的根拠に基づいた個人、個人に最も適した運動メニューをつくり、国家資格を持った運動指導士が丹念に指導に当たっています。また、必用に応じて栄養士による食事の指導、保健師や看護師による健康指導、メンタル指導まで行っています。



巷にある「健康増進施設」との大きな違いは一定期間(3ヶ月から6ヶ月)トレーニングの後に、定期的に健康増進の度合いをチェックし、さらなる健康増進の為のアドバイスを行っている点にあります。

**自らの健康づくりは、あなた自信の日頃の努力以外にありません。
先ず第一歩を!! 踏み出すことです。そして継続することです!!
スタッフ一同、あなたをお持ちしております。**



防犯・護身術について



イベントへの誘い

モノは決して豊かとは言えないが、“いちやりばちョーデー”という互助の精神に満ち溢れた昔の、否つい数十年前までの沖縄の田舎の原風景、留守宅でも玄関の鍵をかけず、暑い夏の夜長でも涼風を求めて戸を開け放して寝床についたものでありました。

炎天下で汗を流し行商をしているオバーを招き入れ縁先でお茶を差し上げ、ひと時世間話に興じたり、他人の苦勞や痛みを分かち合う、いわゆる互助の精神に満ち溢れたものでありました。今昔の感に堪えない次第であります。

しかし時代の変遷と共にモノは豊かになった反面、人の心は貧しくなったとよく言われます。

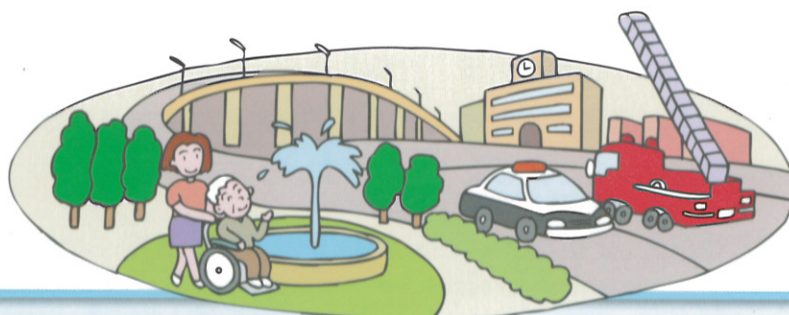
身も心も幸せにするはずの科学、文化、文明の発達は今や改めて問い直されるべき時代を迎えたようです。

都会では向こう三軒両隣り何する人ぞ・・・で、すべてが我関せずの風潮があり、コミュニケーション不足による諸々の事件、事故が発生し、忌まわしい報道が連日のようにメディアを賑わしています。

そこでわが身は自ら守る。我が病院(企業)は職員の結束で守り、我が地域は住民の団結で守るという主旨・目的で今回、下記の日程で研修、イベントを開催することになりました。多くの方々のご参加をお待ちいたしております。

記

1. 日 時：2007年(平成19年)6月20日(水)
午後3時30分～5時
2. 場 所：沖縄セントラル病院(6階 多目的ホール)
3. 参 加：無 料
4. テ ー マ：家庭・企業・地域での防犯と護身術
5. 講 師：那覇警察署 生活安全課 安全なまちづくり推進係
沖縄県警部補 金城保志一 様
新川 義文 様



■外来担当医師

診療科名	午前/午後	月	火	水	木	金	土
脳外科	午前	大 仲	大 仲	大 仲	大 仲	大 仲	大 仲
	午後	岩 井	岩 井	外間・岩井	岩 井	岩 井	岩 井
脳外科 (ガンマナイフ)	午前	佐 村	佐 村	佐 村	佐 村	佐 村	佐 村 (第1・3土曜)
	午後	佐 村	佐 村	佐 村	佐 村	佐 村	
内 科	午前	加 藤	久手堅	野 里	加 藤	久手堅	瀬 尾
	午後	井 戸	久手堅	井 戸	瀬 尾	加 藤	瀬 尾
外 科	午後				下 地		
環境器 内 科	午前			鈴 木			
	午後	鈴 木				鈴 木	
整形外科	午前	松 田		松 田		松 田	琉大(整形)
	午後	松 田				松 田	
皮膚科	午前	山 本			川 崎		
眼 科	午前・午後	宮 城		宮 城		宮 城	宮 城
歯 科	午前	當 間	當 間	當間・大仲	當間・大仲	當 間	當間・大仲
	午後	當間・大仲	當 間	當間・大仲		當間・大仲	
ドック検診		大仲・井戸	大仲・井戸	大仲・外間・井戸	大仲・井戸	大 仲	大 仲

■受付時間

午 前： 8時30分～12時30分
午 後： 13時30分～17時30分

■診察時間

午 前： 9時00分～13時00分
午 後： 14時00分～18時00分

■ガンマナイフセンター (直通：854-5516 内線：217)

■居宅介護支援センター (直通：855-7200 内線：219)

■デイサービスセンター (内線：505)

・健康増進サービス機関(厚生労働省認可) ・附属リハビリテーションセンター

■健康管理センター (内線：214・223)

・人間ドック ・脳ドック ・一般検診 ・特殊検診

・メディカルフィットネスセンター『フローゲン』(直通：854-5541 内線：502・504)

編集後記

年6回の発行を目標に、地域医療対策・広報委員会が発足しました。当初の基本理念でもあります『ひたすら病める人々のために・・・』を実現するためにも、地域住民の皆様
の生活に役立つ情報を発信していけるよう努めてまいります。

〈地域医療対策・広報委員会：屋良、坂部、照屋、具志、平良、大仲、玉城、松本、堀江、安里、株木〉